

# ヘルスケアアートの制作

**実施者** 芸術工学研究科 教授 鈴木賢一

**連絡先** ken@sda.nagoya-cu.ac.jp

**連携先** 病院等

**ポイント**

芸術工学部の学生がその特性を活かして病院の療養環境向上に貢献しています

## 1 概要

- ・芸術工学部では、患者の目線から病院建築の環境改善を目指した研究に取り組んでいます。その一環として、特に小児患者が病院に対して感じる不安感や恐怖感を軽減するため、インテリアデザインの企画と制作を行っています。床や天井、検査機器などにアートを取り入れることで、無機質で人工的になりがちな環境を柔らかくあたたかい雰囲気に変えています。

## 2 活動内容

- ・病院等から依頼を受けると、学部内でプロジェクトに取り組もうという意志のある学生を募ります。平成27年からは芸術工学部内に「はみんぐ」という学生チームを立ち上げました。
- ・対象施設の現状を視察し、医療スタッフの皆さんからのリクエストをヒアリングします。これに基づき、デザイン案を提示し、修正を加えながらデザイン案を決定します。決定したデザイン案を、夏休みや春休みの期間を利用して、現場に入り込んで完成させます。前半のデザイン作成に2～6か月程度、現場作業には10名ほどが1週間程度参加し完成させます。

## 3 成果

- ・12年以降、これまでに東海地方の総合病院の小児科や小児クリニックなど30箇所以上で実績を積み重ねており、いずれのプロジェクトでも、患者さんはもとより医療スタッフの皆さんから好評を得ています。市内では、名古屋第一・第二赤十字病院、西部医療センター、東部医療センターで実施しており、また山口県や富山県、埼玉県などの県外でも実績があります。
- ・30年度には文化庁の「大学における文化芸術推進事業」として「未来につなぐヘルスケア・アートマネジメント人材育成事業—医療福祉施設の環境向上を支援する名古屋モデルの全国発信を目指して—」が採択され、ヘルスケアアートの人材育成講座をスタートさせました。



藤田医科大学の小児科病棟の壁面アート



名古屋市厚生院のひな祭りのアートパフォーマンス